

一般質問

11月

知りたい！
聞きたい！



吉田芳春 議員

捕獲したイノシシを食肉加工処理し、6次産業化で地域の活性化を！

問 町民からイノシシ被害にについての苦情は後を絶たない。農作物被害も深刻であるが人家の庭先などにも出没し、家庭菜園の被害や家の近くの側溝を掘り起こされて側溝が土で埋ってしまふ被害などがある。

また高齢者が朝夕の散歩中にイノシシに出くわして身の危険にさらされる被害があり、イノシシ対策が急務である。

国でも、新たな対策事業が予定されるなど取り組みが強化され

ている。

今後の課題を踏まえ、今こそ、地域創生を活用したイノシシ対策の一層の強化が必要である。

町内周辺におけるイノシシ生育頭数は年々増加傾向にある。この現状をどのように見ているのか町長の考えを問う。

答 平成27年度末の捕獲数は1,800頭と予想しており、過去最高の捕獲を見込んでいます。それに伴い生育数も増加しているものと推測している。

問 町として国や県へ有害鳥獣対策の強化を求めると共に、現在ある制度の研究と今後の活用について問う。

答 有害鳥獣防止対策事業の継続実施について、農林省中国四国農政局山口支局へ強く要望している。

問 イノシシ被害が下火になるまで期限付きの特別条例を制定し、誰でも無条件でイノシシ対

策の補助・助成を受けられるような緩和措置はできないのか。

また、イノシシ被害対策室(仮称)など専門の班を新設し、イノシシの根絶を図る考えはあるのか。

答 前年度から現況耕作地であれば補助対象としている。面積要件も電気設置以外は外している。

現行制度の下で対応可能と判断している。

農林振興班の所管であり、特に専門的な班を設置する考えはない。

問 イノシシの習性や食性などを調査・研究し、イノシシが近づきにくい地域づくりに取り組む考えがあるのか。

答 山口大学との「包括的連携・協力協定」の一環としてイノシシ対策について調査研究を行うことにしている。

問 イノシシを昨年度、過去最高の1,621頭捕獲している。捕獲したイノシシを食肉加工(猪肉料理やハムなど)し、有効活用ができるよう食肉加工所の設置や真空低温調理法の普及を

図り、6次産業化の振興と地域活性化策について問う。

答 捕獲した鳥獣を有効活用する上からも6次産業化し、防衛、調査研究の他、捕獲した鳥獣を資源としての活用も、視野に入れて行くことも必要であると思う。

新年度から、野生の鳥獣食肉処理施設等整備事業の補助金を創設し、食肉処理業の許可に必要な施設整備に一施設一回限り上限50万円の補助金を計上している。



大積・佐連間県道添いに出没したイノシシ